



あさのちゃんねる

特集

**成人の8人に1人が
「慢性腎臓病」
早期治療で悪化を防ぐ**

透析センター長
奥山医師インタビュー

連携登録医のご紹介
きだクリニック
院長 木多 真也 先生

**病院の理念**

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。

vol.28

2019年 新春号
(年4回発行)

特集

腎臓内科医インタビュー

成人の8人に1人が 「慢性腎臓病」 早期治療で悪化を防ぐ



透析センター長

おくやま ひろし

奥山 宏

日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医

日本透析医学会専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本腎臓学会指導医

趣味・健康法

ゴルフ、1日2食の生活習慣

診察日

〈腎臓内科〉水・木曜(午後)

年々、増加傾向にある慢性腎臓病。初期段階では自覚症状が現れにくいため、悪化するまで放置してしまう人も少なくありません。その症状や治療法について、腎臓内科医の奥山医師にお話を伺いました。

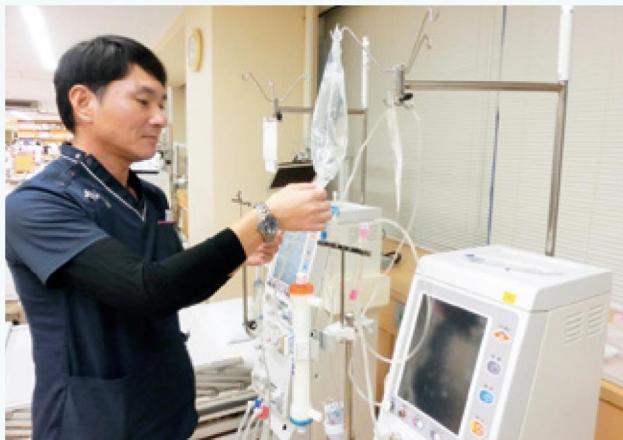
罹患率が高い慢性腎臓病は 日本の新たな国民病

現在、日本では成人の8人に1人が、80歳以上では2人に1人が慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease : CKD)を患っており、新たな国民病とも言われています。慢性腎臓病は腎臓の障害が慢性的に続いている状態のことと、「たんぱく尿が出る」「血尿が出る」「画像診断で腎臓に変形が見られる」「腎機能が低下している」といった異常が3カ月以上続いた時は慢性腎臓病と診断されます。腎機能の低下とは、血液中の老廃物の一種であるクレアチニンの値と、年齢、性別を基に算出した「推算GFR」の値で判断します。腎機能が低下するとGFRの値が下がり、正常値が90mL/分/1.73m²以上であるのに対し、60mL/分/1.73m²未満の状態が3カ月以上続くと慢性腎臓病と診断されます。原因疾患としては腎炎や急性腎障害、糖尿病性腎症、高血圧によって引き起こされる腎硬化症、多発性囊胞腎などが挙げられます。慢性腎臓病の重症度は「GFRの値」「原因疾患」「たんぱく尿の有無」によって総合的に判断し、治療方針を決定します。

健康診断で異常があれば 早めに専門医の受診を

慢性腎臓病の初期段階では自覚症状がほとんどありません。そのため、健康診断で、たんぱく尿や血尿の値が異常値を示しても放置してしまう方が少なくありません。患者さんの中には長年にわたり異常値を放置し、既に人工透析が必要なほど進行した状態で専門医を受診

される方もいます。そうならないためにも、健康診断で異常があった場合は早めに専門医の診察を受けてください。現在は治療法が進化しているため、早期発見・早期治療をすることで悪化を防げる可能性が高まります。慢性腎臓病にはいくつかの原因疾患があり、それによって治療方針が異なります。腎臓内科では腎臓の組織を顕微鏡で評価する腎生検をし、確定診断を行うのが一般的です。食べ物やビタミン剤によってたんぱく尿や血尿が偽陽性になる場合もあるため、正確な診断をし、最もふさわしい治療法を選ぶために腎生検は有効な検査です。治療法は病気の重症度によっていくつかの選択肢があります。腎機能が少しづつ落ちてきているといった軽度の病態なら、食事療法を行います。糖尿病の悪化によって腎機能が低下している場合は血糖コントロールをしながら、減塩に取り組みます。高血圧も腎機能を落とす原因となるため、降圧剤をうまく取り入れて血圧をコントロールすることも大事です。食事療法だけでは病状をコントロールできない腎炎や血管炎、膠原病などの疾患の場合は、ステロイドや免疫抑制剤を使って自己免疫力を落とす免疫抑制療法も選択肢のひとつです。免疫抑制療法は感染症のリスクなど副作用もあるため、患者さんの年齢や生活背景を考慮した上で治療を始めます。



県内屈指の規模を誇る透析センター

慢性腎臓病が重症化し、腎機能が10%以下に低下すると透析治療が必要になります。当院の透析センターは石川県内屈指の規模を誇り、現在180名ほどの患者さんにご利用いただいています。

透析センターでは患者さんの病態や生活背景に応じた治療をしています。例えば、糖尿病により動脈硬化が進み、足に血流障害を起こす閉塞性動脈疾患を発症している患者さんには血液中の悪玉コレステロール(LDL)を吸着除去するLDL吸着療法をしています。この

治療法により血液の粘稠度が下がり、血流を改善することで足の壊死を防ぐこともできます。高齢で通院が難しい患者さんは療養型病棟に入院し、透析治療を受けることが可能です。入院中は塩分を管理した療養食を召し上がっていただきます。日中、仕事をされている働き盛りの患者さんのために夜間透析の受け入れも行っています。また、近年、自然災害が増えていますが、緊急時には他の医療施設や透析連絡協議会と連携し、患者さんが透析治療を継続できるような体制作りをしています。災害時における患者さんへの情報提供として、ホームページや、NTT災害伝言サービス活用の準備や訓練を行っています。また、災害で当院への来院が不可能となり、他の施設で透析治療をする場合に備えて、透析データを迅速に提供できるように、患者さんと共に準備しています。

継続は力なり。 臨床の貴重な経験

私は山形県出身で、父は外科医でした。患者さんから感謝される父の姿を見て、自分も医師を志しました。金沢で医師となった頃、アミロイド腎症という比較的珍しい病気でネフローゼ症候群になった患者さんを8年間にわたり担当したことがあります。患者さんは計4回の腎生検と化学療法をし、大変な化学療法を乗り越え、寛解の状態に落ち着きました。この治療経過を論文にして報告した経験から、一人の患者さんと長く向きあうことの大切さを知り、その出会いに感謝しました。慢性腎臓病のほとんどが糖尿病や脂質異常といった生活習慣病が原因で、肥満も原因のひとつです。日本人にも増えている病気なので、「自分は大丈夫」と過信せず、異常があれば早めに受診してください。専門医と一緒に病状をコントロールし、悪化を防ぐことが大事です。



透析センター紹介

当センターは昭和51年に開設し、透析患者さんの増加に伴い、地域のニーズに応えるべく増床を繰り返してきました。現在では病床数90床の石川県最大規模の透析センターとして、約180名の患者さんにご利用いただいております。

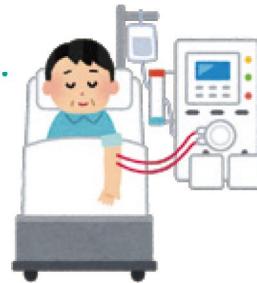
血液透析は、腎不全になり、腎臓がほとんど動かなくなった時に行われる治療法です。慢性腎不全により、維持透析を必要とされる患者さんは年々増加しています。当センターでは、透析腎臓内科専門医による質の高い透析医療を提供しています。長期療養生活を送る患者さんに寄り添い、少しでも安心して透析治療を受けていただけるようにサポートいたします。



• 血液透析の働き

血液透析では、動かなくなった腎臓の代わりに

- 1 毒素を取り除く**
- 2 余分な水分を取り除く**
- 3 電解質を調節する**
- 4 血液のpHを一定に保つ**



という働きをします。しかし、腎臓の働きの全てを代行することはできません。腎臓は24時間働いていますが、血液透析は1週間に3回(3~5時間程度)と短くなってしまいます。このように、血液透析は腎臓に比べて質的にも時間的にも不完全なものであり、それだけに食事や運動など、日常生活の過ごし方に注意が必要になります。

• シヤントについて

血液透析を行うには、たくさんの血液を身体の外に出し、きれいになった血液を再び身体に戻すことが必要です。その為には腕の血管の動脈と静脈を体内でつなぎ合わせる手術が必要になります。この手術した血管をシャントといい、透析治療の命綱とも言える大切な血管です。



当センターでは、シャントに不都合が生じた場合には、経皮的血管拡張術(PTA)などで速やかに対応しています。また、その後のフォローアップとして定期的にシャント超音波やシャント造影を実施し、患者さんの大切なシャントが長持ちするように管理の強化に努めています。

• 透析治療時間

※祝祭日も行っています。

	月	火	水	木	金	土	日
午前(9時~14時30分)	○	○	○	○	○	○	/
夜間(15時~22時30分)	○	/	○	/	○	/	/

• 受診の流れ

当院での透析治療を希望される方は、かかりつけ医からの紹介状をご用意いただき、当院「地域医療連携室」宛にFAX(076-252-0561)または郵送をお願いいたします。透析の空状況などをふまえ、お返事させていただきます。



透析看護師から一言

私たちは、透析を受ける患者さんのサポート役として「浅ノ川で透析をすれば安心」と思っていただけるようなセンターを目指しています。患者さんのニーズに応え、先読みのできる看護を目指し努力してまいります。

看護師長(慢性腎臓病療養指導看護師、透析技術認定士) 北岡 美恵子

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市疋田町の

『きだクリニック』をご紹介いたします。

私は急性期医療病院で33年間勤務してまいりましたが、縁あって出身地近くに昨年開業いたしました。残りの医師人生をもっとも身近な地域医療に捧げることで全うしたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

勤務医時代は、紹介患者さんに対して手術治療をおこなってきました。一命を取り留めても後遺障害が避けられなかった患者さんが、果たしてほんとうに満足されたのか、主治医として実感できぬまま短期間で、かかりつけ医に逆紹介せざるを得ない事が多々ありました。診療所では、患者さんは医師個人に価値を見いだして来院されますので、開業後は、厳しさと責任を痛感しています。しかし、立ち位置が患者さんにずっと近づいたことで、患者さんやご家族の本音を今まで以上に聞くことができ、ようやく全人的な医療に思いをめぐらせる機会を得たような気がしています。

浅ノ川総合病院は、治療の得意技をいくつか持っております、北陸でも傑出した病院です。病診連携においては、かかりつけ医の目でみると、医療スタッフの対応が早く、無理な依頼でも断ることはなく、連携をとても大切にしていることを日々感じます。病院の理念が、スタッフに浸透していることが覗える数少ない病院であると思います。開業医が患者さんを安心して紹介できる地域中核病院として、今後ますますご発展することを願っております。



クリニック外観



オープンMRI

連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



院長 木多 真也 先生

きだクリニック

診療科：脳神経外科

専門領域：脳卒中、認知症、頭痛

専門医資格：日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会

日本認知症学会

略歴：金沢市立浅野川中学校卒業

石川県立金沢泉丘高校卒業

昭和58年 金沢大学医学部卒業

金沢大学脳神経外科講師、福井県立病院

脳神経外科部長を経て、

平成29年 加藤クリニック（脳神経外科）を継承し開業。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:30~18:00	○	○	/	○	○	/	/

休診日：水曜日・土曜日午後、日曜日、祝日

※初診に限り、電話またはインターネットでの初診受付を行なっております。ただし、診療時間を確約するものではなく、ご予約ではありません。

※午前中は混み合うこともございますが、午後は比較的余裕がございます。時間に余裕のない方は午後からの受診をお勧めいたします。

※年末年始、季節休暇、学会出席などで臨時休診や診療時間が変更になる場合があります。ご来院前にご確認ください。

住所：〒920-0004 金沢市疋田2丁目39番地
電話：076-257-7771

駐車場：あり

アクセス：(バス)北陸鉄道 疋田東 下車徒歩1分
(電車)JR東金沢駅 徒歩20分



破碎センター 体外式衝撃波結石破碎治療(ESWL) 紹介

！ 体外式衝撃波 結石破碎治療(ESWL)とは

音波と同様な性質をもった衝撃波を収束し、体外から照射することで結石を細かく破碎する治療法です。筋肉や他の臓器を傷つけることはありません。

合併症や後遺症は少なく、結石治療の重要な選択肢となっています。



MODULITH® SLX-F2 »connect«
The intelligent connection of modern
technology in urology

ストルツメディカル社製
モデュリスSLX-F2

当院で稼動しているストルツメディカル社製モデュリスSLX-F2の特徴

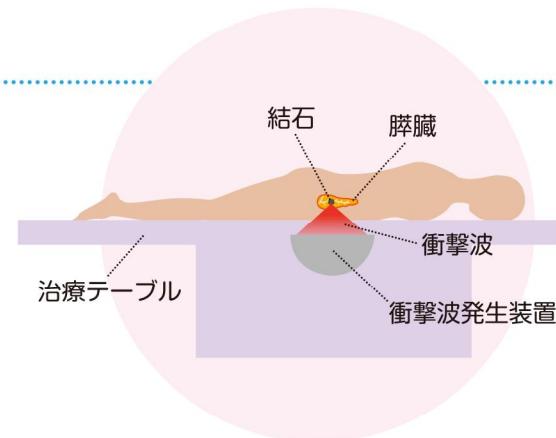
- ✓ 焦点装置が深いため体の大きい方にも有効です。
- ✓ X線装置が高解像度であるため、小さな結石に対しても可能です。
※結石のある場所や結石の固さにもよりますのでご相談ください。
- ✓ 高出力であるため大きく硬い結石にも有効です。
- ✓ 治療台はあらゆる体位で治療が可能なよう設計されているため、小柄な方、体格のよい方の治療も行えます。

！ 適応疾患

脾石 胆石 腎結石 尿管結石など

！ 脾石に対する治療について

当院内科では消化器系の結石治療をはじめ、難治性疾患である慢性脾炎の治療にも力を入れています。慢性脾炎は脾臓にくり返し炎症が起こり、脾臓の細胞が壊れて減少し、線維が増えて脾臓全体が硬くなっている病気で、お酒をたくさん飲む方に多く見られます。この病気になると脾臓の中にある脾管（脾液が流れる管）の形態に異常が起きたり、脾臓の中に石（脾石）ができたりします。この「脾石」に対する治療として「体外式衝撃波結石破碎治療(ESWL)」を積極的に行ってています。



- ✓ 本治療方法は保険が適応されます。
- ✓ 痛みが少なく、麻酔が不要です。
- ✓ 副作用や後遺症の心配はほとんどありません。
- ✓ 高齢の方や心臓病・糖尿病などの合併症のある方も治療が可能です。
- ✓ 体に傷が残りません。
- ✓ 日帰り手術も可能です。
- ✓ 治療時間は約1時間です。



！ 治療までの流れ・ご相談について

① 外来受診 ② 治療日の決定

診察・説明を受けていただき、ESWL治療に同意いただけましたら、治療日を決定します。

ご不明な点ございましたら、脾石・胆石：内科外来、腎結石・尿管結石：泌尿器科外来までお問い合わせください。

医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院

お問い合わせ先

内科・泌尿器科 (平日) 14時～16時 TEL: 076-252-2101 (代)

がんサロン『せせらぎ』紹介

当院では、がん患者さんやご家族が交流できる場として平成27年3月にがんサロン『せせらぎ』を開設しました。『せせらぎ』という名前は浅野川の緩やかな川のせせらぎをイメージしています。その運営は医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、事務員で構成するがん患者サロン部会によって行われています。

開設当初から月一回(毎月第4木曜日)の開催で、ミニ講座と催し物の組み合わせイベントを提供しています。ミニ講座は院内の医師や部会構成員を中心とした多職種によって行われ、がんに関連した内容を中心に様々なテーマの講義により療養生活の工夫や知識などを深めることを目的としています。催し物では、院内外のボランティアの方々や地域学生によるコンサート、アロマハンドマッサージやストレッチ体操、季節毎の夏・秋祭りやクリスマスコンサート、アピアランスセミナーなどを行っています。

また、平成30年7月からは月一回の開催に加え、平日毎日開設する常設化を行い、患者さんがいつでも気軽に立ち寄って悩みや苦労を語り、日々の生活に役立つことを発見できる場所になるような環境作りに力を注いでいます。

北鳴中学校
吹奏楽部によるコンサート



院外ボランティアによる
コンサート(フラダンス)



医師によるミニレクチャー



院内職員によるコンサート



クリスマス会



アロマハンドマッサージ



毎月の会の終わりにご記入いただくアンケートでは、以下のようなとても嬉しい声が寄せられています。

- 月一回のこの日を楽しみに生きています。不思議なことにサロンの日は体調が良くて外出できるんです。
- サロンへ来るようになり前向きになりました。暗い気持ちが吹き飛びます。
- 色々な職種の人がいて、気になったことを何でも聞ける雰囲気がとても良いです。
- いつも明るい雰囲気の中での貴重な講座、催し物、たいへん楽しく、ためになるがんサロン、ずっと続けて下さることを心よりお願い致します。



このように『せせらぎ』を必要として下さる皆さんそのため、今後もより良いがんサロンを運営して行けるように部会メンバー一丸となって頑張って行きたいと思います。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

がんサロン『せせらぎ』

サロンの場所 東館1階 がん相談支援センター

サロンの時間 9:00～17:00
(土は12:30まで。第2土、日・祝休み)

イベント日 毎月第4木曜日

イベント場所 本館3階 講義室

お問い合わせ先 がん相談支援センター



行事レポート

ガンマナイフパーフェクション導入記念講演会

平成9年7月、当院に北信越で第1号機として導入されたガンマナイフは、現在までに治療数は5,900例(平成30年10月現在)を超え、良好な治療成績を得ております。平成30年10月、更に高度で精度の高い治療を提供するためガンマナイフパーフェクションを導入、その記念講演会を平成30年10月19日(金)ホテル日航金沢にて開催、65名の方にご参加いただきました。

基調講演では、当院 定位放射線外科センター長 光田 幸彦 医師が「転移性脳腫瘍に対するガンマナイフの役割」について講演しました。

特別講演では、金沢大学附属病院 呼吸器内科 臨床教授 笠原 寿郎 先生より「長期生存を目指した肺癌治療の現状と問題点」についてご講演いただきました。

講演会後の情報交換会では、実際の治療や提供までの流れ等、よりスムーズな連携を行うための情報交換が行われました。



笠原 寿郎 先生



救急症例検討会

平成30年11月5日(月)当院講義室にて第8回目となる『救急症例検討会』を開催しました。近隣地域(金沢、津幡、かほく、内灘)の他、羽咋、寺井、小矢部と遠方からの救急隊にもご参加いただき、計48名の救急隊員、当院職員50名を合わせ、総数98名にて会が行われました。

特別講演では、当院てんかんセンター長 廣瀬 源二郎 医師が救急隊からの要望が多かった「てんかん発作と非てんかん性痙攣の鑑別」について、実際の発作の動画を用いて講演しました。

症例検討では金沢市救急隊から依頼の3症例について、救急隊員・当院担当医との活発な意見交換が行われました。



平成30年度 浅ノ川病院グループ 地域連携交流会

平成30年11月16日(金)ホテル金沢にて浅ノ川病院グループ(以下 グループ)主催の『地域連携交流会』を開催しました。参加された医療・介護関係者140名にグループの各施設代表者より各施設の機能や特色が発信されました。情報交換会では、グループ職員を加えた240名の多事業、多職種間の交流が図られ、顔の見える連携の場となりました。

※浅ノ川病院グループ

浅ノ川総合病院、金沢脳神経外科病院、桜ヶ丘病院、心臓血管センター金沢循環器病院、千木病院、田中町温泉ケアセンター

当院は、今後も地域の方々に情報を発信し、連携を強化することで安全かつ安心して生活できる地域づくりに努めて参りたいと思います。

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL:076-252-2101(代) URL:<http://www.asanogawa-gh.or.jp/>
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

